



外務省外交史料館の所蔵史料と活動

－外交史料の総合的情報センターをめざして－

内藤 和寿

外務省外交史料館

概要

外務省外交史料館は戦前・戦後の外務省記録を中心とする外交史料を保存・公開している。外交史料館は、これを基に、閲覧・レファレンス、『日本外交文書』の編纂、展示をはじめ、アジア歴史資料センターや外務省HPを通じた電子画像史料の提供、講演会や研究会の開催など幅広く活動している。外交史料館では、今後もこうした活動の幅を広げるとともに、各活動の連携をはかり、「外交史料の総合的情報センター」をめざしてゆきたいと考えている。本報告では、こうした外交史料館の所蔵史料と活動について紹介する。

1. 外交史料館の沿革と所蔵史料の概要

(1) 外務省外交史料館は、戦前期の外務省記録を中心とする外交史料の保存、閲覧、展示、そして編纂などを行う外務省の一施設として、1971年4月15日に開館しました。この後、1988年7月には、展示室・図書室・収蔵庫などを備えた別館を開設しました。また、2001年4月の情報公開法施行に伴い、外交史料館は総務大臣より歴史的な資料を適切に保存し、一般の利用に供する機関として指定されるとともに、同年3月30日付の閣議決定（「歴史資料として重要な公文書等の適切な保存のために必要な措置について」）及び各府省庁官房長等申し合わせにより、保存期間を満了した外務省の行政文書のうち、歴史的な文書は外交史料館に移管されることとなりました。

(2) こうした沿革を辿り、現在外交史料館では、戦前期の外務省記録約48,000冊や条約書（約600件）、国書・親書（約1,100件）等はじめ、幕末期の外交史料集である「通信全覧」（320巻）・「続通信全覧」（1,784巻）、1976年以来外務省が20回に亘って行ってきた外交記録公開により公開された戦後期の外務省記録約12,000冊、情報公開法に基づく開示済み文書のうち歴史資料としての価値が認められる文書（コピー）約8,500件等を所蔵し、

一般の利用に供しています。

2. 外交史料館の諸活動

外交史料館では、こうした所蔵史料を広く活用して頂けるよう、数々の業務を行っています。

(1) 先ずは、閲覧・レファレンスです。外交史料館の閲覧室では、各所蔵史料毎に目録が備え付けられており、各史料は、原本、マイクロフィルム、CD-ROM、紙コピーのいずれか又は複数の方法により閲覧することができます。このうち、マイクロフィルムやCD-ROMで閲覧可能な史料は、マイクロリーダープリンターやデジタル複写機で閲覧者自身がセルフコピーすることができます。また、閲覧者が自身のパソコンを持ち込んで史料内容を入力することも可能です。このようにして、当館閲覧室は、国内外の学者、研究者、大学院生などを中心に、マスコミやその他一般の方々など、年間約2,500人の閲覧者に利用されています。

(2) 外交史料館では、この閲覧業務に関連して、所蔵史料に関するレファレンス業務も行っています。閲覧室での閲覧者の方々からの質問はもとより、国内外から電話、手紙、FAX、メール等で数多く寄せられるレファレンスは、その対象時期が幕末期から現在までにもおよび、内容も政治・

外交、経済、文化交流と多岐にわたります。当館ではこれらレファレンスに対し、必要に応じた調査を行って回答しています。また、これらの中から多くの方々に関心を有しているのではないかとと思われるものを選び、質問と回答を「外交史料Q&A」として外交史料館のホームページに掲載しています。

(3) 閲覧業務とともに外交史料館業務の柱となるものに、『日本外交文書』の編纂・刊行業務があります。『日本外交文書』は、基本的に明治初年以來各年ごとに、当該年における重要事件・事項に係わる文書を外務省記録ファイルの中から撰文し、これに編者が文書件名等を付した上で各事件・事項毎にまとめて刊行しています。『日本外交文書』の編纂・刊行は、外務省の事業として1936年に第一巻を刊行して以来、今日まで70年以上にわたって継続的に行われており、現在までに、201冊の『日本外交文書』が刊行されています。刊行状況は、既に明治期・大正期の編纂を終え、現在、1937年から1945年に至る時期の編纂作業を行っています。また、こうした戦前期『日本外交文書』の編纂とともに、戦後期の『日本外交文書』編纂作業も進めており、現在、サンフランシスコ平和条約関係の外交文書を編纂・刊行中です。

(4) 閲覧や『日本外交文書』の編纂とともに、近年、当館が所蔵史料を活用した活動として力を注いでいるのが展示業務です。展示は外交史料館別館展示室を中心に行っており、幕末以降の我が国外交の歩みを示す主要史料や写真パネルを常設展示するとともに、特定テーマの下に期間限定の展示を行う特別展示や吉田茂元首相関係資料の展示も行っています。

(5) また、外交史料館は所蔵する戦前期外務省記録を順次電子画像化し、アジア歴史資料センターに提供しています。この結果、現在までに約1万8千冊（約440万コマ）の戦前期外務省記録がアジア歴史資料センターのホームページで閲覧可能となっています。

(6) こうした所蔵史料を利用した活動を行う一方、

外交史料館ではその保存にも力を注いでおり、書庫環境の整備はもとより、個々の史料の状況を見極めてそれぞれに適した保存措置や補修を行うなど、史料の利用と保存の両立に努めています。

(7) この他、外交史料館では、外部の大学教授や研究者を招いた講演会や研究会の開催をはじめ、これら講演会や研究会の記録・所蔵史料の紹介・外交史関係論文・外交史料館活動報告等を掲載した『外交史料館報』の編集・発行などの活動も行っていきます。

3. 諸活動に関する情報発信の強化

外交史料館では、上述の諸活動個々の充実を図るとともに、これら諸活動に係わる情報発信を強化して行きたいと考えています。

その手段として力を注いでいるのは、外務省ホームページの外交史料館サイトの活用です。外交史料に係わるレファレンスのうち、多くの方々に関心を持たれるご質問や回答を選んで、「外交史料Q&A」として掲載しています。また、『日本外交文書』については、刊行実績を紹介するとともに、明治期の『日本外交文書』から順次電子画像データ化して外交史料館ホームページに掲載し、より多くの方々に簡便に『日本外交文書』を活用して頂きたいと考えています。更に、過去に開催された特別展示の史料のリストと解説を「特別展示アーカイブス」として当館サイト上でご覧いただけます。この他、「外交史料館報」についても講演会・研究会の記録や『日本外交文書』の紹介記事などを中心に、順次ホームページに掲載して行きたいと考えています。

4. 諸活動の連携強化による総合的な情報提供

外交史料館では、単にホームページを活用して諸活動に係わる情報発信を強化するだけでなく、諸活動の連携強化により総合的に情報提供を行う試みも行っています。例えば、2006年の3月に、外部の大学教員を招いて「幣原喜重郎についてー外務省記録とその周辺ー」と題する研究会を行い、

その年の秋には外部からの基調報告者と『日本外交文書』編纂委員の先生方によりパネルディスカッション「幣原外交の時代」を開催、これと同時に約5ヶ月に及ぶ特別展示「幣原外交の時代」を催しました。また、この研究会とパネルディスカッションの詳細な内容を「外交史料館報」に収録し、特別展示については外交史料館ホームページの「特別展示アーカイブズ」に展示史料や解説を掲載いたしました。これら一連の活動を通じ、日本の代表的外交官の一人であった幣原喜重郎元外相の人物像、「幣原外交」として知られる外交政策の展開と当時の国際情勢、そしてこれらに関する外交史料の紹介等を総合的に発信することが出来たのではないかと考えます。

5. 外交史料の総合的情報センターをめざして

外交史料館は本年度で開館37年目を迎え、上述のとおり、諸活動を通じて所蔵史料を広く一般に提供してきました。この間、所蔵史料については我が国外交の歩みを記す一次史料として質的にも量的にも第一級の史料であるとの評価を内外から得、これら外交史料の中から重要な文書を編纂・刊行した『日本外交文書』は数多くの論文や著作に参照、引用されてきました。また、展示室は各地の歴史市民サークルの方々、大学で外交史や国際政治史などを専攻するゼミの学生、そして修学旅行の中学生など幅広い年代の方々に見学頂いており、これら見学者の方々から我が国外交の歩みを現実感のあるものとして捉えられ、外交史に関する知識と関心が高まったとお礼状なども頂戴しています。

外交史料館では、こうした実績を踏まえつつも、その活動の基となる所蔵史料をより充実させ、これに基づく活動を発展させて行きたいと考えています。この点、外交史料館においては、今後、保存期間を満了した外務省の行政文書のうち、歴史的な文書の移管が進み、外交史料館で利用できる一次史料は順次増加しています。また、外交史料館ではこうした一次史料の他、『日本外交文書』

(既刊201冊)や『外交史料館報』(既刊21号)をはじめとする外交史料館刊行物、当館所蔵史料を利用した著書や論文(著者から寄贈を受けたもの)、更に別館図書室では吉田茂国際基金から寄贈された日本外交史や国際政治史に関する図書など一次史料をより有効に活用するための諸資料も順次増加しており、併せて利用できます。

このように外交史料館では、一次史料を中心に利用可能な外交史料の整備・充実を図るとともに、これら所蔵史料に基づく諸活動の連携や情報発信を強化し、外交分野における国民の知見・記憶を確かなものにする「外交史料の総合的情報センター」を目指して前進して行きたいと考えています。

発表者略歴

中央大学文学部史学科卒業後、外務省入省(外交史料館)、現在に至る。史料の閲覧、レファレンス、アジア歴史資料センターへの史料提供等を担当。